



Title	TSS端末からバッチ処理によるSPSSの入出力について
Author(s)	家本, 修
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1982, 44, p. 71-75
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/65515
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

TSS 端末からバッチ処理による SPSS の入出力について

大阪大学工学部 家 本 修

従来計算センターの SPSS（社会統計パッケージシステム）は、バッチ処理を基本にデザインされており、パッケージ構成として結果は自動的にシスアウトファイルに落ち、TSS 端末からカードインシステムで入力した場合でも、センターのプリンターかリモートバッチ端局のプリンター^{※1}に出力される。本来会話型の統計処理は、TSS/LiB-6 統計計算としてパッケージ化されており、この利用が便利であるが多くの変数や観測数を扱う場合や幅広い処理手法を利用したい時など十分であるとは言えない面がある。そこで SPSS や STATPAC が TSS からのカードインシステム利用ではあるが、端末での入出力が可能になれば、利用範囲も拡大されると思われるので、SPSS を例に筆者が使っている簡単な利用方法を紹介する。

1. 通常の方法で（カードイン）、センタープリンターへ出力する場合

基本的ジョブ構成

```

1          8          16
$          JOB          課題番号$パスワード, ジョブクラス
$          LiMiTs      CPuT, MEM-1, MEM-2, SYSOUT
$          CPROC       SPSS,, CPuT, MEM-1, MEM-2, SYSOUT
$          PRMFL        FR, R, S, 課題番号/ファイル名※2
$          PRMFL        08, R, S, 課題番号/ファイル名※3
$          PRMFL        09, W, S, 課題番号/ファイル名※4
$          JiS

```

SPSS コントロールカード

```

$          ENX
$          ENDJOB
***EOF

```

2. パーマネントファイルへ出力する場合（カードイン）

ジョブ構成は、以下になる。

```
1           8           16
$           JOB           課題番号$パスワード, ジョブクラス
$           LiMiTs       CPuT, MEM-1, MEM-2, SYSOUT
$           PROGRAM      RLHS
$           LiMiTs       CPuT, MEM-1, MEM-2, SYSOUT
$           PRMFL        H*, R, R, LiB/SPSS
$           PRMFL        10, W/C, S, SPSS/UDC
$           FiLE        SA, , 100L
$           FiLE        T1, , 100L
$           PRMFL        FR, R, S, 課題番号/ファイル名
$           PRMFL        08, R, S, 課題番号/ファイル名
$           PRMFL        P*, W, S, 課題番号/ファイル名
$           PRMFL        09, W, S, 課題番号/ファイル名
$           JiS
          }
      SPSSコントロールカード
          }
$           ENX
$           ENDJOB
***EOF
```

この構成によりパーマネントファイルに結果が出力されることになる。

-
- ※1 因子分析などで、結果の一部をパーマネントファイルに出力するオプションがある。
 - ※2 利用者パーマネントファイルからのGET FiLEであるがファイル定義FWで書き込んだものの以外は、TSSカードインシステムでは、RUN ファイル名コマンドがあり、実際の利用頻度は少ないと考えられる。（FW書き込みは、TSSJISコードと異なる。）
 - ※3 素データ入力
 - ※4 結果の一部を出力するオプションのある場合の出力をセーブする。

3. TSS端末から、SPSSを利用しパーマネントファイルに出力する場合

まず、DATAを XXX (ファイル名) に作製する。次に2のジョブ構成と同じものをファイルOOO (ファイル名) に作製する。

例

```
$:JOB:課題番号$パスワード,ジョブクラス
$:LIMITS:CPUT, MEM-1, MEM-2, SYSOUT
$:PROGRAM RLHS
$:LIMITS:CPUT, MEM-1, MEM-2, SYSOUT
$:PRMFL:H*, R, R, LIB/SPSS
$:PRMFL:10, W/C, S, SPSS/UDC
$:FILE SA, , 100L
$:FILE T1, , 100L
$:PRMFL:FR, R, S, 課題番号/ファイル名
$:PRMFL:08, R, S, 課題番号/XXX (ファイル名)
$:PRMFL:P*, W, S, 課題番号/ファイル名
$:PRMFL:09, W, S, 課題番号/ファイル名
$:JIS
    }
    SPSSコントロールカード
    }
$:ENX
$:ENDJOB
***EOF
```

以上がファイルOOOに作製されているものとする。

会話例

```
USER ID-KADAI BANGO          ( —— 入力部分)
PASSWORD-
*****
SYSTEM ?CARD NEW      (以下AUTOXでJOBを作製するが、すでにファイルOOOに作製されているので)
*RUN OOO
```

CARD FORMAT?

N, J _____ (: が、8, 16, 32 にセット)

.....

SNUMB #△△△△△

*

が出力され、カードインシステムでの入力は完了した。

※6
入力の確認は、JSTSコマンド、JMONIコマンドで行えばよく、
※7
OUTPUT WAITINGの回答が出れば、JOUTサブシステムにより、
※8

* JOUT #△△△△△

FUNCTION? EPRINT \$\$

END OF \$\$

FUNCTION? RELEASE で完了する。

※7	TSSの手引	昭和56年6月	大阪大学大型計算機センター	P91参照
※8		〃		P91注2参照
※9		〃	表8.3	P93参照

4. 利用に当たっての注意事項

出力量に見合ったファイルを作製しておくのは当然の事であるが、この種の方法は、出力結果の一部や全体を検討したい時又は、一部をよりきめ細かく出力させたい時に使用するものであって、プリント速度の遅いTSS端末で全体を印字するのは、好ましいものでない。

また、実行レポートがSYSOUTファイルに出力されるので、利用者はCARDFORMATでJを指定（システムファイル保留指定）し、JOUTサブシステムで実行レポートをプリント後、すぐにRELEASEコマンドでシステムから消去しなければならない。

※9
カードインシステムについては、TSSの手引き（大阪大学大型計算機センター、昭和56年6月）を参考のこと。又、磁気テープ利用に際しても同様な方法が可能である。さらに、この様にしてファイルに得られたデータは、LISTコマンドのみで、1行132カラムの印字が可能であり、図表のプリントもセンタープリンターと同様に出力させる事が出来る。

5. 参考文献

※10
SPSS統計パッケージ (I), (II), 三宅一郎、山本嘉一郎 東洋経済新報社

本稿を書くに当り、計算センター研究開発部 多喜先生、工学部 橘先生の御指導を得ました。ここに深く、御礼申し上げます。

※9 TSSの手引き、P83～P98を参照のこと。特にRUNコマンドについては、P89表8.2に詳しく書載されている。

※10 日本で附加された、QFACTOR, 数量化理論Ⅰ類, Ⅱ類, Ⅲ類, Ⅳ類, クラスター分析, 非線形マッピング, 信頼性係数は、センターのSPSSパッケージには含まれていない。但し、数量化理論、クラスター分析については、センターにSTATPAC-4, 6, クラスター分析システムの名称でパッケージ化されている。

多量データの入力については、手書OCRを利用されることをお進めする。文字や数字の読み取り特性に慣れれば、誤読数も減り楽くにパーマメントファイルに書き込むことが出来る。

以 上